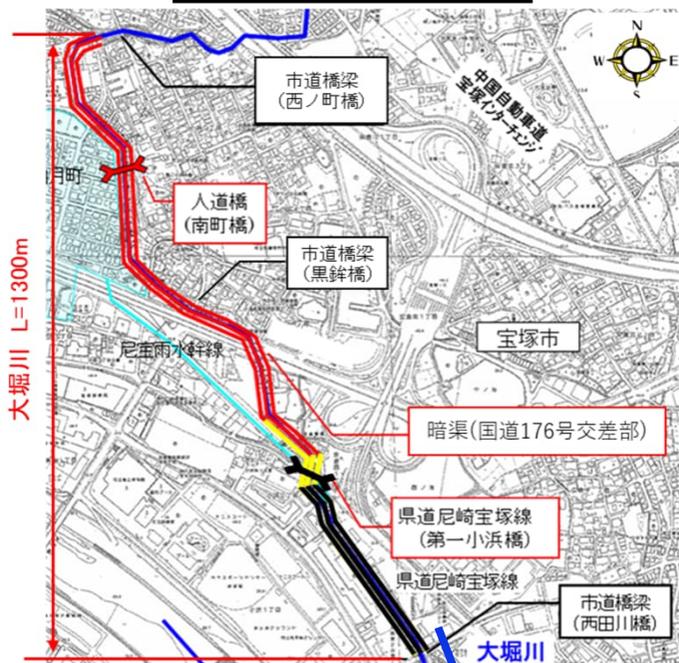


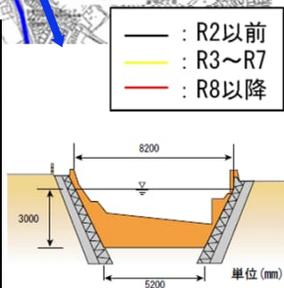
構成員から事前に頂いた意見に関する参考資料

支川の進捗状況

大堀川

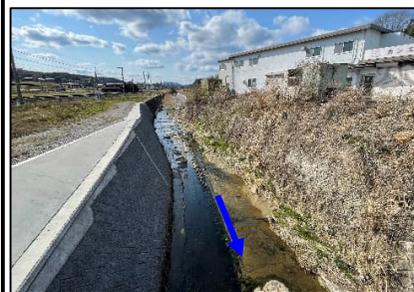
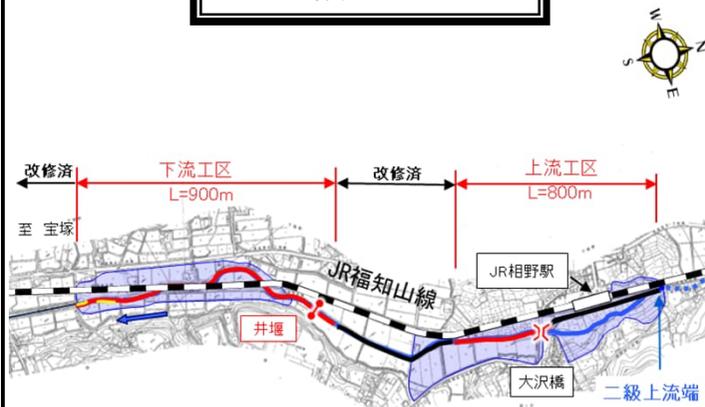


残事業区間(国道176号交差部)

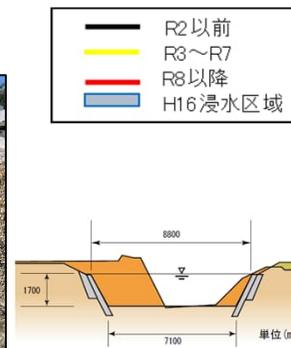


○進捗状況
 国道176号交差部の施工方法の検討に不測の時間を要しており、事業完了がR12年度となる予定。今後は国道176号擁壁の詳細調査等を行い、早期の工法決定および事業進捗を図る。

相野川

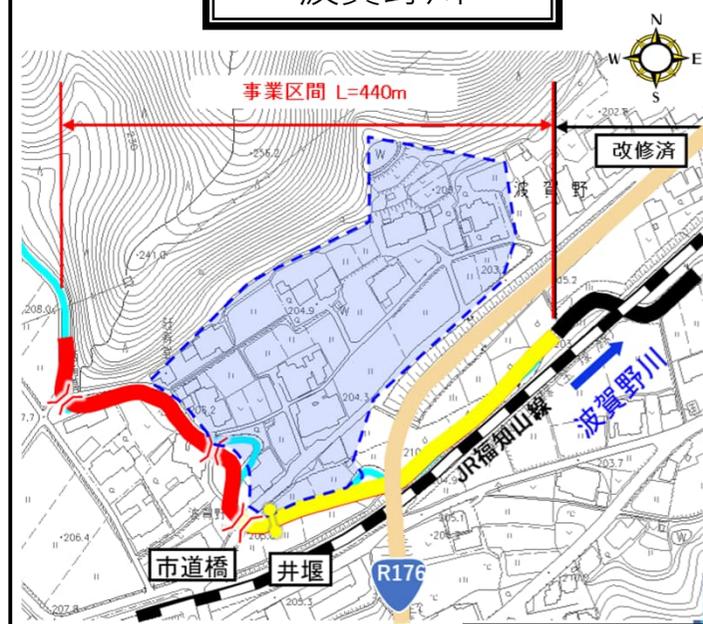


残事業区間 (下流工区下流端)

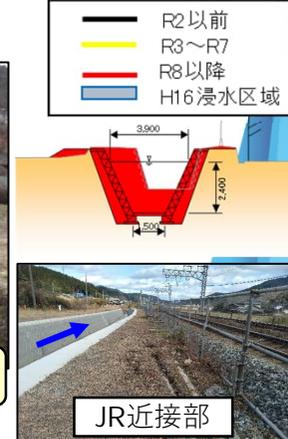


○進捗状況
 下流工区で一部の用地買収が難航しており、事業完了がR12年度となる予定。今年度は用地担当者との調整会議を実施する等、早期の用地取得に向けて取り組んでいる。

波賀野川



残事業区間 (屈曲部)



JR近接部

○進捗状況
 JR近接施工の協議に不測の時間を要したため、事業完了がR10年度となる予定。JR近接部の整備は既に完了しており、引き続き残事業区間の早期整備に取り組む。

県民緑税の活用について

武庫川水系河川整備計画に関わる「災害に強い森づくり」について

- 武庫川流域に位置する神戸・阪神地域では里山防災林整備や都市山防災林整備などの事業に代表される広葉樹林を主体とした森林整備を積極的に実施しています。



「災害に強い森づくり」の次期対策について

- 第5期対策では、手入れ不足の人工林を中心に流域単位で一体的に整備できる事業の新設や、都市山の整備を強化するための事業を拡充する。
- 第4期対策（R3～R7）：88億円【現行】
- 第5期対策（R8～R12）：93億円

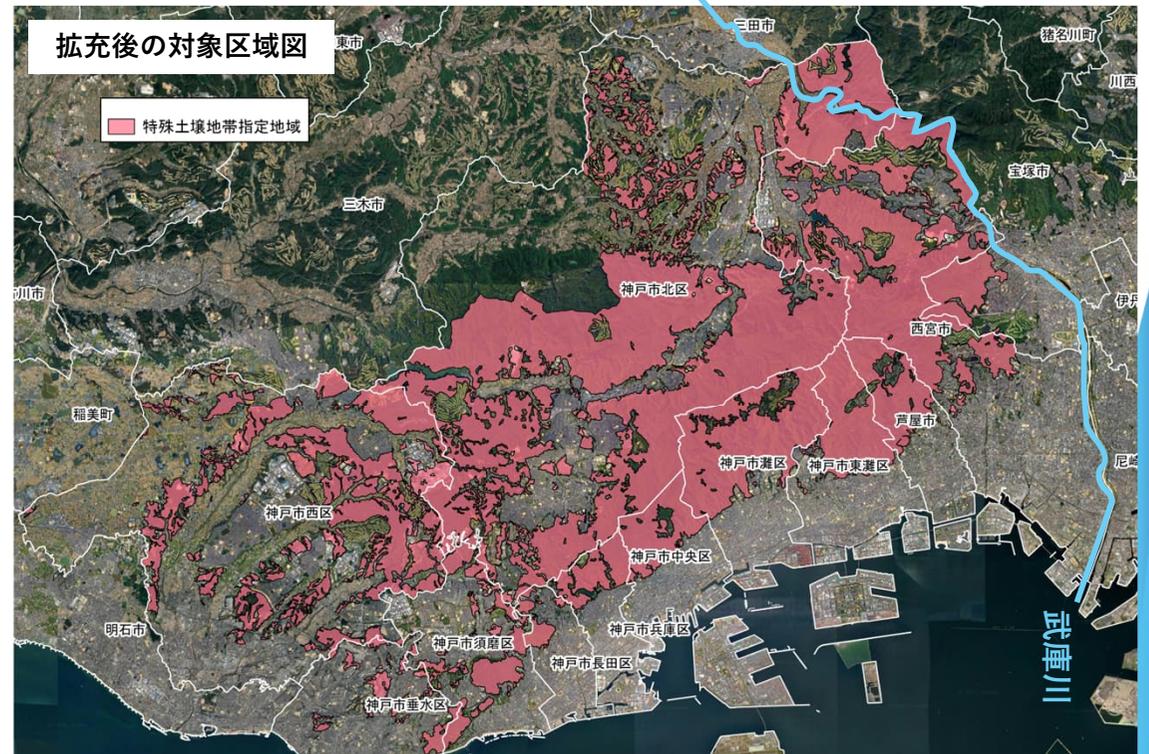
「災害に強い森づくり（第5期対策：R8～R12）」における「都市山防災林整備」の拡充内容

- 近年の豪雨や地震による山地災害の甚大化・頻発化を踏まえ、**ひとたび災害が発生すると甚大な被害が想定される都市近郊の森林の防災機能向上**を重点的に推進するため、「都市山防災林整備」を拡充
- より広域で都市山の防災機能向上が図れるよう、対象区域を**六甲山系に近接する「特殊土壌地帯指定地域※」に拡大**

※「特殊土壌地帯指定地域」

しばしば台風の来襲を受け雨量が極めて多く、かつ特殊土壌に覆われているために、災害が発生しやすい地域で「特殊土壌地帯災害防除および振興臨時措置法」において郡市を最小単位として指定。

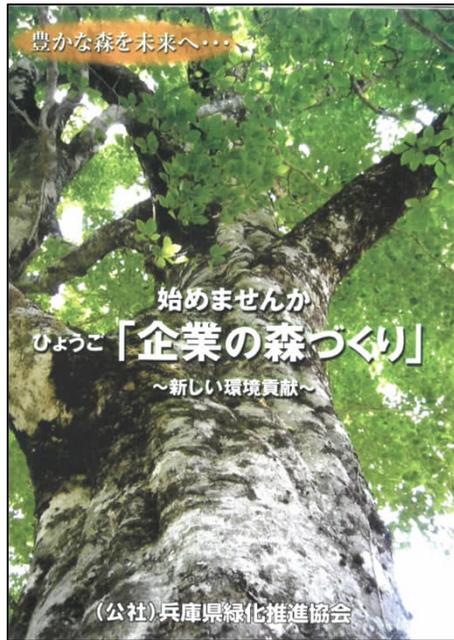
対象市	現行	拡充（特殊土壌地帯指定地域）
神戸市	六甲山系のうちH26災・H30災で崩壊が多発した箇所	旧長尾村、旧淡河村を除く全域
西宮市	—	全域
芦屋市	—	全域
宝塚市	—	旧良元村のみ



注：上表のほか、淡路市、洲本市の一部も指定されているが、今回の拡充対象は、市街地や重要インフラが近接する六甲山系周辺に限定。

「企業の森づくり」について

兵庫県立宝塚西谷の森公園での取組



(公社)兵庫県緑化推進協会HPより

「企業の森づくり」制度とは

企業・地元市・協会・県が「企業の森づくり活動への取組に関する協定」を締結し、企業や団体等の皆様に森林保全に参画してもらう制度。

●企業への支援

- ・活動フィールドの斡旋
- ・技術指導や労務支援を行う森林組合等の斡旋 など

●企業の取り組み

- ・森林保全活動の実施 など

取組事例

「住友倉庫の森」



- ・(株)住友倉庫、宝塚市、協会、本県は、令和7年6月1日に、「企業の森づくり活動への取組に関する協定」を締結。
- ・県立宝塚西谷の森公園をフィールドとし、(株)住友倉庫が森づくりに参画。

■概要

活動企業：株式会社住友倉庫

活動フィールド：宝塚市境野字保与谷 14番1 (面積約 2.9ha)

活動期間：令和7年7月1日から令和12年6月30日まで

■活動の概要 (企業・団体作成資料、HPから転記)

- (1) 株式会社住友倉庫の従業員及びその家族等による社会貢献活動を通じた環境保全の取組みとして活動する。

(目的)

- ① 株式会社住友倉庫におけるサステナビリティ推進及び社会貢献活動
- ② 従業員のコミュニケーションの活性化
- ③ 従業員の心と体の健康づくり

(2) 活動内容

- ① 下草刈り、つる刈り、植栽、里山林整備、環境美化等
- ② 森林空間を利用した活動 (森林・野鳥・きのこ観察)、環境学習等

減災対策に対する県民の意識調査

県民モニター制度を活用し、「防災に対する意識と取り組み」に関する調査を毎年実施している。
(調査結果は県全域の集計結果だが、全県の傾向と武庫川流域の傾向で大きな差異は無い)

●「県民モニター」制度

兵庫県では、県民の参画と協働による県政を推進するため、県内在住又は在勤・在学で18歳以上の方を対象に、インターネットにより身近な県政課題等に関するアンケート調査（年度内に4回程度）を行い、県の施策や事業の立案等に生かしていく「県民モニター」制度を設けている。

○過去の県民モニター制度による調査実績

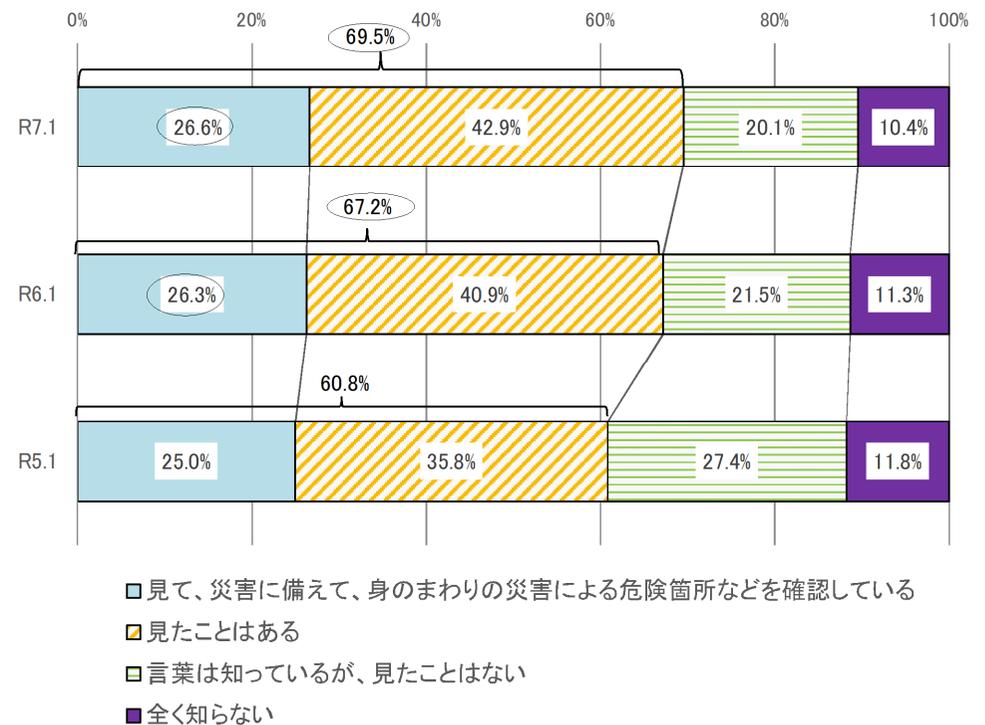
年度	回	調査テーマ
R6	第1回	ユニバーサル社会づくりの推進について
	第2回	ひょうごの花・緑について
	第3回	男女共同参画社会と芸術文化に関する意識調査
	第4回	防災に対する意識と取り組み
R5	第1回	介護に関する意識
	第2回	受動喫煙対策について
	第3回	新型コロナウイルス感染症に対する県民の意識や県が行った対策等について
	第4回	防災に対する意識と取り組み
R4	第1回	観光について
	第2回	福祉のまちづくりについて
	第3回	がん対策について
	第4回	防災に対する意識と取り組み

【調査登録者数・回答者数】

R6年度 第4回 登録者：2428名 回答者：1754名
 R5年度 第4回 登録者：2568名 回答者：1846名
 R4年度 第4回 登録者：2504名 回答者：1878名

●兵庫県CGハザードマップの認知度

兵庫県全体では、少しずつではあるが、CGハザードマップの認知度は高まっている。

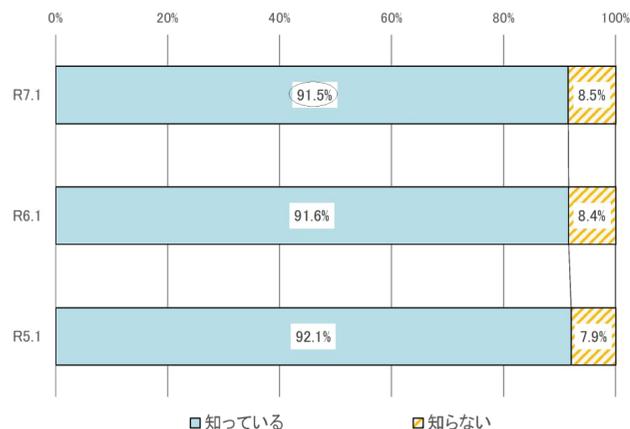


減災対策に対する県民の意識調査

5

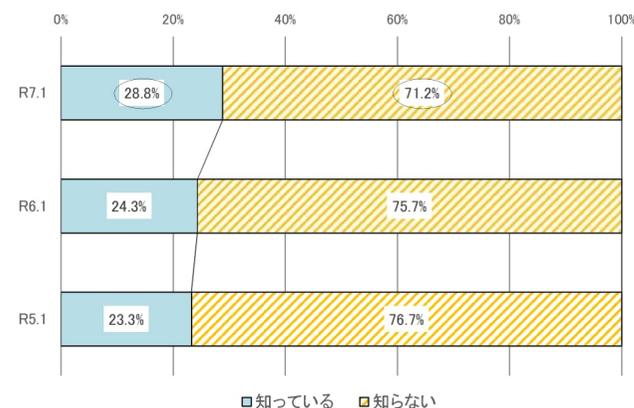
●避難場所の認知度

住んでいる地区で指定された避難場所について知っている人は9割を超えている。



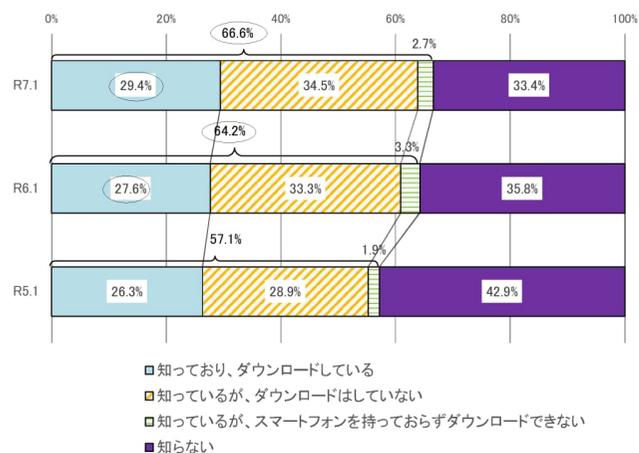
●「個別避難計画」の認知度

個別避難計画を知っている人は3割程度であり、更なる普及・啓発が必要となる。



●「ひょうご防災ネット」スマートフォン向けアプリの認知度

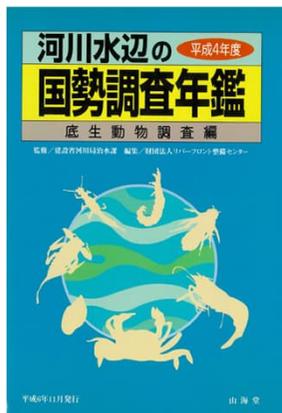
「ひょうご防災ネット」スマートフォン向けアプリを知っている人や活用している人は増加傾向にある。



武庫川の環境調査について

武庫川下流部における環境調査の状況

県内の河川環境を代表する主要14水系



河川水辺の国勢調査（～H13）

方法：代表点による定点調査
項目：河川、魚介類、底生動物、植物、鳥類、陸上昆虫類、両生類



ひょうごの川・自然環境調査（H14～）

方法：連続的調査
項目：河川、魚類、底生動物、植生

- ・過去に武庫川では河川水辺の国勢調査を2回、ひょうごの川・自然環境調査を2回実施している

武庫川下流部掘込区間の取組み



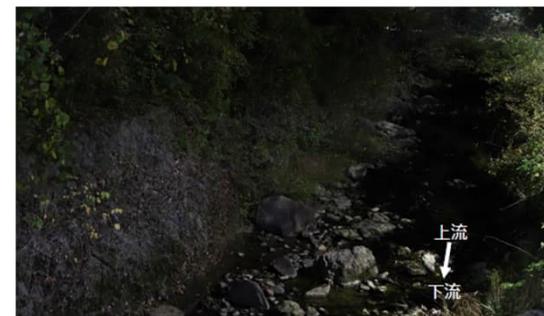
平成29年7月



令和5年10月

生育実験

- ・武庫川峡谷の貴重種の生育実験（ビオトープの設置）やゲンジボタルの調査等を実施している。



ゲンジボタルの現地調査

武庫川下流部築堤区間の取組み



調査位置図

- ・武庫川のシンボルフィッシュであるアユの遡上状況を8地点で調査している



武庫川のアユ

兵庫県特定外来生物対策本部の設置

第1回「特定外来生物対策本部会議」(R7.8.8) 資料より

7

特定外来生物の分布が拡大している現状を踏まえ、今後必要となる対策等について全庁横断的に検討・実施するため、新たに「**兵庫県特定外来生物対策本部**」を設置する。

【背景】

本県は国際港である神戸港や姫路港、一部国際化した神戸空港を擁しており、国内の交通の結節点であるため、多くの特定外来生物の侵入・定着を許し、分布範囲が拡大している。

ナガエツルノゲイトウ



県下16市町で発生

※平成元年尼崎市で初めて発見（国内初）

凄まじい繁殖力・再生力で
農業被害や生態系被害等のおそれ

クビアカツヤカミキリ



県下9市で発生

※令和4年明石市で初めて発見

サクラ、モモ、ウメなどの樹木に発生し、枯死させるほか、倒木のおそれ

1 検討内容等

- 全庁横断での検討によるナガエツルノゲイトウ及びクビアカツヤカミキリに係る対策の強化
- 地域の実情を踏まえた対策実施のため、発生地域では必要に応じて地域部会を設置

(地域部会の役割)

- ・ 地域における対策目標、対策の優先順位の設定
- ・ 対策目標に応じた防除手法の検討
- ・ 防除体制の整備、防除活動の実施 等

地域部会の取組は対策本部で共有し、優良事例の横展開や更なる取組の検討などにつなげる

2 構成

知事を本部長、副知事を副本部長とし、関係部長、県民局・センター長等で構成（詳細次頁）

3 設置

令和7年8月8日（金）

ナガエツルノゲイトウの発生状況

第2回「特定外来生物対策本部会議」(R7.12.15)資料より

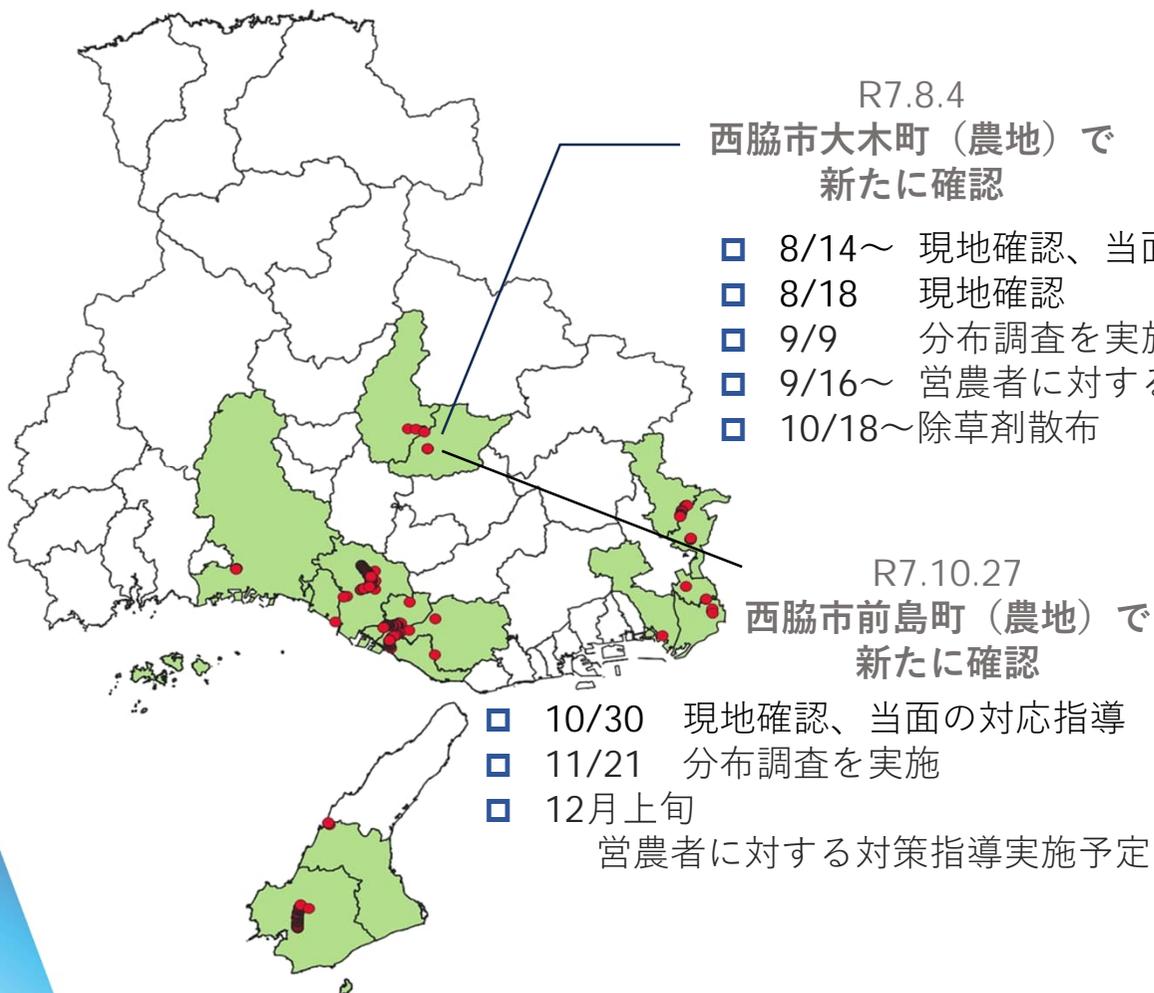
□は今回追記

8

- ✓ 県下16市町で確認(第1回会議以降増加なし)
- ✓ 箇所単位では、西脇市内(北播磨県民局管内)の2箇所を確認
- ✓ 根絶に向け取組が進む地域がある一方、下流側での新規発生や河川内の繁茂が残置している箇所あり

県内の発生地域図

緑：発生市町
赤：発生箇所



<発生市町>

神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、伊丹市、加古川市、西脇市、高砂市、川西市、南あわじ市、猪名川町、稲美町、播磨町、多可町

<武庫川流域の状況>

西宮市：R7年8月、下流部築堤区間の土砂撤去箇所
で確認され、撤去作業中。

- ・株数：1
- ・防除方法：葉・茎は焼却処分
根混じり土砂は工事範囲内で
覆土による死滅処理

クビアカツヤカミキリの発生状況

第2回「特定外来生物対策本部会議」(R7.12.15) 資料より

□は今回追記

9

- ✓ 県下9市で確認(第1回会議以降増加なし)
- ✓ 箇所単位では、川西市内の農園や神戸市灘区の民地等で新たにフラスを確認
- ✓ 県内の被害木は9月末現在502本(第1回対策本部時から88本増)となり、現状では被害拡大を一定抑制

県内の発生地域図



緑：発生市町
赤：発生箇所

R7.8.6

巡回調査時に川西市内の農園でフラスを確認

- 8/20～ 巡回調査及び当面の対応指導
- 8/29～ 伐採による対策実施



<発生市>

神戸市、明石市、西宮市、芦屋市、宝塚市、川西市、三田市、丹波篠山市、丹波市

<武庫川流域の状況>

- 成虫・フラスの発見** { 神戸市：神戸市北区山田町（複数箇所）
三田市：三田市四ツ辻（複数箇所）
- フラスのみの発見** { 西宮市：西宮市生瀬町（1箇所）
宝塚市：宝塚市長尾台（1箇所）

※いずれも河川区域外